

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ライジング・リブート	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.490	△RG	0.050	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ライジング・リブート

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

4-1/2

番

研磨剤

比較対照ボール：エイリアス

フレアーの幅 インチ

表面加工

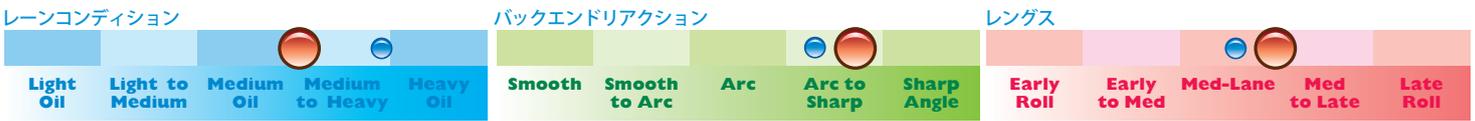
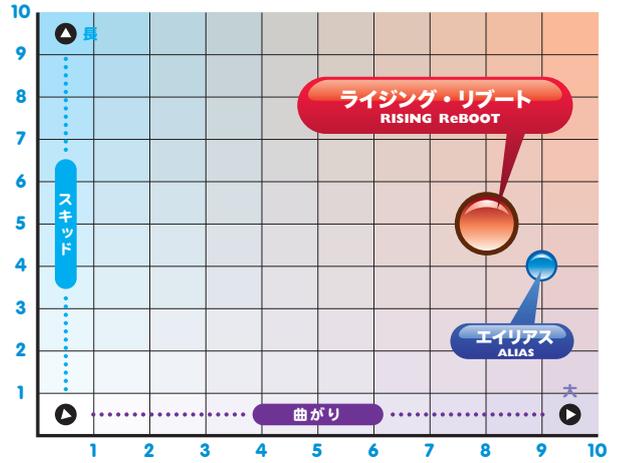
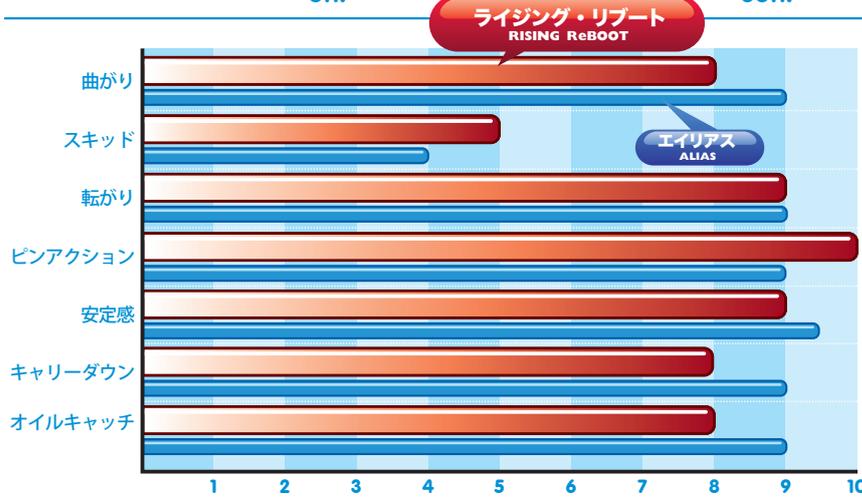
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

4-1/2

番

研磨剤



ボールの評価

TRACK社 RISING。当時コロンビア社はリサージェンス、トラック社はライジングという2代巨頭の図式がありました。圧倒的なヘビーオイル対応のリサージェンスに対し、対応領域を大幅に広げ緩やかな曲がり始めの中にもしっかりと軸移動をするRISING。私の中で現代Midの安定感=曲りの安定と軌道を表現し始めた語源はTHE RISINGのモーションポテンシャルであつとも言えると思います。当時質量大きさと比重の重い”Mega Tron Core”は独特なコアデザインと共にトップウエイトの軽さからエクストラホールがほぼなしで様々なレイアウトが取れる画期的なボールでした。今回紹介するRISING ReBootはコア形状こそ異なりますが、読んで字の如く”RISING再起動”の意味合いを持ちます。詳細もなにも知らないテストングでは、第一印象は”しっかりと曲がる”ことでした。対応コンディションはミディアムヘビーからミディアム。オイルにめっぽう強いという感じでも流されるという印象でもなく、オイルの濃淡を敏感に感じさせない安定した軌跡を描く、凄くバランスが良い印象を受けたのが感想です。そこからRISING ReBootのネーミングを聞いたので”なるほど”という納得の一言につきます。コアデザインもカバーストックも現代のテクノロジーに変えながらも、やはり”曲りの質と量”と”扱いやすさ”はボウラーにとって必須条件になるのではないかと思います。表面仕上げはBox Finishでやや曇った状態で出荷しますが、テストングの状態でもポリッシュ、ダルの2種類でテストを行っています。各々ほぼ曲りのイメージを変えずに領域の違いをカバーできる検証もしています。またピンキャリアの柔らかさは上位に位置するほどトータルバランスに優れています。”ゴリゴリ曲がる”という印象のボールよりもややオイルが多めなコンディションからミディアム全般で気持ちよくボウリングができる性能です。

特記事項 TRACK社から万人向け、使用領域を大幅に広げながらピンキャリアまで柔らかく仕上げた、利便性の高いボールの発売です。オールラウンドに使用できるボールをお探しの方はこのボールおススメです。